

発表演題：：低侵襲な段階的治療法を用いた口腔再建の長期治療

著者名：佐藤篤

抄録：

Full mouth reconstruction の症例において、治療期間が長期になることは避けられない。

Long-term treatment case に対しては、患者とのインフォームドコンセントを十分に行い綿密な治療計画を立案することが必須で、治療期間中における患者の **Quality of life** を考慮した治療計画・治療法が 欠かせない。

今回、審美障害・咬合不全など複数の問題点を持つ患者の治療に対して、低侵襲な段階的治療を行い治療期間中における患者の **Quality of life** を考慮した。

審美障害の治療では、上顎前歯部の **Bone Defect** と犬歯を含む 3 歯欠損に対して、段階的 **Implantation** と **Extrusion** を行い、さらに **CTG** を併用した。これらにより **Bone Defect** に対する侵襲の大きな **GBR** を避け、3 歯欠損に対しては治療期間中の暫間義歯の使用も避けることができた。**Implantation** では **Flapless Immediate Placement** に **PRF+PPP** を併用することで患者負担を軽減することが出来た。また、付着歯肉不足に対しては **FGG** よりも低侵襲な **Partial thickness flap** を選択した。

咬合不全の治療では、低位咬合に対して **1period**、**1mm**、**3month** として顎機能との調和を考慮し咬合挙上を行った。**Stability period** は **1month** とした。**Total 4~5mm** の咬合挙上に対して **18month** にわたり咬合の安定を図った。生体に対して低侵襲な咬合挙上を行うことにより術後の長期安定を期待した。

今回、**Full mouth reconstruction** の症例に対して、**Long-term treatment** を行い、治療終了時に患者の満足を得ることができた症例を報告する。